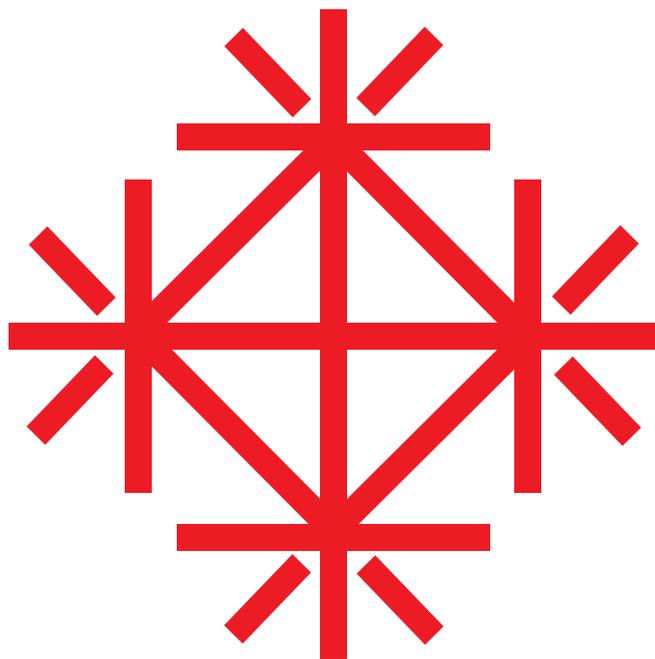


JASDAQ

証券コード:2700



KITOKU SHINRYO

第55期

事業報告書

平成14年10月1日～平成15年9月30日

木徳神糧株式会社

URL <http://www.kitoku-shinryo.co.jp/>

積極的に企業基盤の整備を推進。 信頼回復と業績拡大をめざします。

皆さまには、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

第55期事業報告書をお届けするにあたり、日頃のご支援に対して心よりお礼申し上げます。

当期の日本経済は、一部に明るい兆しが見えたものの、依然として厳しい状況でありました。食品業界においても個人消費の低迷に加え、食に対する不信感の増幅など、市場やお客さまから一層厳しい目で見られることとなりました。当社および子会社であった木徳滋賀(株)においては、JAS法表示違反を起こし、消費者の方々の信頼を失墜するとともに、ステークホルダーの皆さまに多大なご迷惑をおかけいたしましたことをお詫び申し上げます。現在、グループ一丸となって信頼の回復に努めております。

このような環境下で当社グループは、お客さまのニーズにお応えした商品・サービスの提供を進め、競争力の強化を図ってまいりました。しかし、現在の当社グループを取り巻く環境は大変厳しく、自助努力を超えるものでありました。その結果、当連結会計年度の売上高は105,764百万円、当期純損失は645百万円となりました。

当社グループでは、中長期的な経営戦略として、コーポレート・ガバナンスの視点よりグループ全体の経営管理体制の強化を進めていく一方、事業面では「伝統的な米穀卸からメーカーへの転換」をビジョンとして掲げ、高収益構造への体質転換と財務体質の改善を推進しています。具体的には主力の米穀事業は、事業構造の基盤を強化し高付加価値を生み出すメーカーとなること、食品事業においては、米穀事業に次ぐ第2の柱に育成すること、管理部門はより効率的なグループ経営の実現に向け「小さな本社」になることをめざしております。

今後の経済状況は、景況感に明るい徴候がありますが、個人消費は雇用・所得環境の改善が進んでおらず、当面は停滞が予想されます。こうしたなか、当社グループは常に消費者起点による経営に徹し、新たな魅力ある価値を創造するよう、新商品とサービスを開発し提供していく所存です。次期は収益の拡大という明確な目的のもと、経営基盤補強とともに各事業の施策を着実に進めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

木村良

私たちがめざす企業像

【企業価値】

～木徳神糧は、次のことに価値をおきます。～

常にお客さまのニーズに応えます。

お客さま、お取引先、株主、従業員、地域社会など、あらゆるステークホルダーとの信頼関係を大切にします。

社業の発展を通じて社会に貢献します。

【企業理念】

誠意と感謝の気持ちを持つ企業であり続けます。

より高いクオリティを追求する企業であり続けます。

新しい価値を創造する企業であり続けます。

～市場や顧客のニーズの変化に対応するだけでなく、変化を自ら創造し、市場や顧客に対して新しい商品やサービスを提供していきます。～

私たちは、こうした理念のもと、

お客さまに価値ある商品を、タイムリーにお届けしていくとともに、

『コメをコアとした食と暮らしの提案』を積極的に行っていきます。

マークにこめられた木徳神糧のスピリット

人が生きていくエネルギー源となる「米」。その「米」が人と人、人と社会を結び、ネットワークを形成していく…。

このマークには、コメの供給を社会的使命とする木徳神糧が、お客さま、お取引先、株主、従業員、地域社会などのあらゆるステークホルダーとの信頼関係を築き上げ、限らない発展を遂げていくという、強い決意がこめられています。

木徳神糧グループのコンプライアンス行動基準

私たち木徳神糧グループは、

- 社会的責任と公共的使命を確認し、健全かつフェアで透明な業務活動を行っていきます。
- 職場環境の整備と個々人の個性・人権・プライバシーの尊重に努めます。
- 法令記載の文言の順守のみならず、その制定の趣旨、目的、精神の理解と順守にも努めます。
- 反社会的要求には断固とした姿勢で臨みます。
- 再生紙の利用、廃棄物の分別処理等、地球環境保護のための環境保全活動を着実に進めていきます。
- 進出国、進出地域の文化・慣習を尊重するとともに、地域に根差した企業活動を通じて、国際社会との調和を図り、持続的発展に努めます。
- 人種、皮膚の色、性別、宗教、国籍にかかわらず、公正に接し、外国人従業員に対しても、雇用機会均等々の維持に努めます。
- 地域社会との連帯と協調を図り、良好な関係を維持することにより、地域社会の一員としての役割を果たすよう努めます。
- 利益と倫理が相反する場合には、迷わず「倫理」を選択します。

商品企画開発力の拡充と生産性の向上で高収益への転換を図っていきます。

近年、米全体の消費量は少しずつ減少していますが、持ち帰り寿司をはじめとする米飯商品の活況や、定食屋やおにぎりカフェといった新業態の増加により、米消費動向に大きな変化が起きています。この背景には、消費者のライフスタイルの変化や、健康・安全志向の高まりがあり、そこで創出されたニーズは、外食・中食市場の潜在需要として拡大傾向にあります。木徳神糧グループでは、これらのニーズの多様化をチャンスと捉え、無洗米や付加価値米を次々と市場に開発投入することで、着実に高付加価値を生み出す事業へのシフトを進めています。当期末において、精米に占める無洗米のシェアは40%までになっており、付加価値米も順調に市場を拡大しています。

中期経営計画概要

基本方針

「伝統的な米穀卸からメーカーへの転換」をビジョンとして掲げ、高収益構造への体質転換と財務体質の改善をめざします。

米穀事業の取り組み

- 商品企画開発機能を強化します。
- 付加価値商品群（低タンパク米、発芽玄米など）の拡大を図ります。
- アライアンスを進め、販売・物流などの機能強化を図ります。

食品事業の取り組み

- グループ事業間の相乗効果を発揮します。
- 徹底した製造原価の削減をします。
- 提案型商談をスピーディーに展開します。

<木徳神糧グループの成長ストーリー>



精米機器内の残留米ゼロを実現した、新しいスタイルの精米工場が完成。

木徳九州株の新精米工場が平成15年7月に福岡市中央区に完成、本格的に稼働を開始しました。この工場は急速に普及している無洗米の需要に応えるため、無洗米専用工場として建設を進めていたもので、最新鋭の機器を設置しております。最大の特長は、工場ライン全体に自動清掃機能を搭載し、精米工程において機器内に残留する米がゼロ、ということを実現したことにあります。これにより異種類の米が混入する心配がなくなります。同工場にはDNA鑑定機能と残留農薬の検査機能もあり、また各工程を衛生区分によって5段階のゾーンに分けてそれぞれを隔離して管理するという、安全で安心のできるお米を製造するための環境になっております。この精米工場はまさしく未来像を示した工場であり、米穀業界や流通業界から高い関心が寄せられております。初年度の生産目標は8,500tです。



●木徳九州(株) BG無洗米工場

「乳酸発酵米粉ライト」を製品化。米粉事業に本格的に進出しました。

戦略的な新規事業として、米粉事業に本格参入しました。新商品の乳酸発酵米粉ライトは、植物性乳酸菌により発酵処理した米を気流粉碎方式で微粉末化した米粉。製パン用として生地伸びが良く、食パンだけでなくクロワッサンやデニッシュにも応用できるのが特長です。さらに、ケーキの原料や、中華食材としての利用も期待されております。



食事療法が必要な人向けの「低タンパク米」が好調に推移。

木徳神糧では平成13年11月から、利益確保型の付加価値商品として低タンパク米の販売を開始。たんぱく質の含有量を普通のお米の10分の1に低減し、腎臓病などで食事療法が必要な人に向けて、病院や福祉施設などに販売しています。他社製品より風味・食感が良いのも大きな特長で、たいへん喜ばれています。次期は、40%増の130百万円の売上げをめざします。



●「低タンパク米」(ごほんタイプ)

●「低タンパク米」(米粒タイプ)

ギャバ含有量が従来の2倍もある発芽玄米の販売が好調。

木徳神糧では平成14年2月から「籾（もみ）発芽製法」による発芽玄米を発売し、好調に推移しています。籾のまま発芽させる点が大きな特長で、玄米の状態が発芽させた発芽玄米と比較しギャバの含有量は2倍。健康志向の強い消費者の方々から高く評価されています。また原料は「あきたこまち」100%で、味が良いと評判です。



● 発芽玄米

※ギャバとは、正式名を「γ(ガンマ)-アミノ酪酸(らくさん)」と言い、血圧の調整作用や神経の沈静、中性脂肪の抑制などに効果があると言われています。

“一番おいしいお米を食べたい”お客さま向けに開発した「米浪漫」

年間4万件ものお米の分析データを活用し、当社独自の基準でその年の最上級米を選定してブレンドした「米浪漫」。インターネットで直接お客さまに販売しております。他のルートでは手に入らない限定商品として、好評です。15年産米から、使いやすい300g(約二合)入りの小パックで登場しました。



<http://www.kome-roman.com>

タイ王国大使館主催「タイ料理のタベ」レセプションに協賛。「タイ香り米」の輸入も堅調。

2003年4月9日、タイ王国大使館大使公邸において、流通関係者140人を招いた「タイ料理のタベ」が開催されました。カシット・ピロム大使の「タイ米と一緒に食べる料理を日本に幅広く普及していきたい」との抱負を受けて協賛。当社が輸入している「タイ香り米」を用いたタイカレーの試食会を行いました。当初、タイ米の日本への輸入量は、年間200t程度でしたが、飲食店向けに消費が拡大し、現在では1,100t。No.1グレードの商品を輸入する当社は、その80%を「タイ香り米」として取り扱っています。「タイ香り米」は現地の国際規格ISO認定の精米工場で製造されグレードが高く、タイ料理の食材として、更なる販売拡大が期待されています。



● タイ香り米

木徳神糧の旬な話題のココが知りたい!?

Q&A

Q
A

セールスプロモーションはどのように実施していますか？

さまざまなお米が続々と登場する今、木徳神糧では幅広く消費者の方々々にプロモーション活動を行っていく必要があると考えて、米穀販売店の販売促進を提案する「ライス・プロモーション・カタログ」(季刊)を発刊しました。この中で折々の販売促進のポイントや販売促進ツールのご提供、人気商品の紹介などを行っています。また当社ホームページでも、一般向けに新しい商品の紹介や当社商品を取り扱っている販売店情報などを発信。あらゆる機会でご高品位なプロモーション活動を展開しています。



● 「ライス・プロモーション・カタログ」発行スケジュール



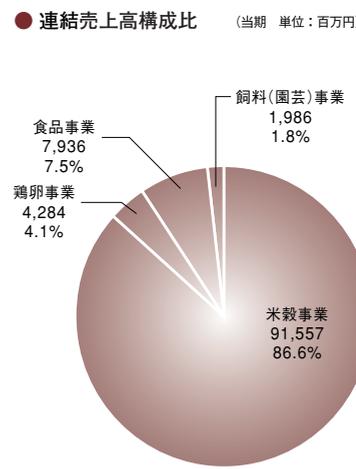
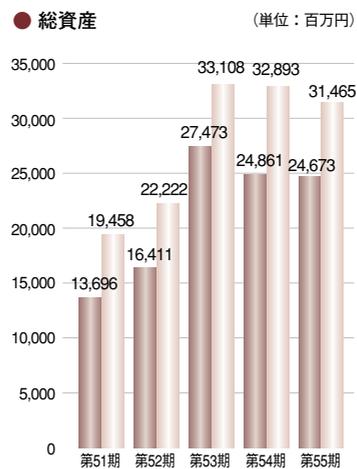
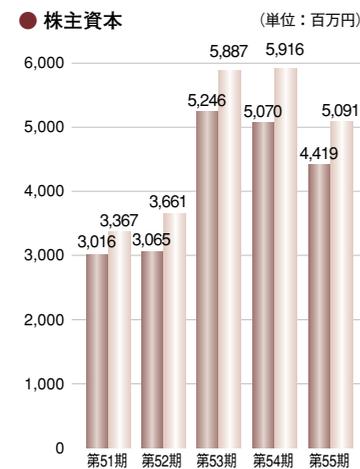
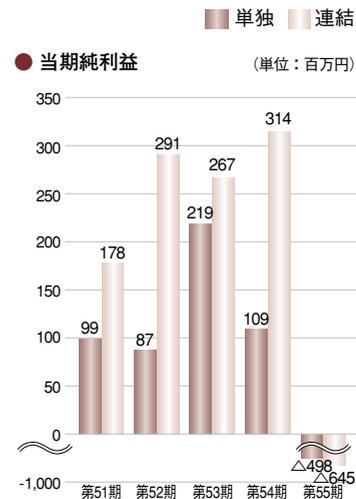
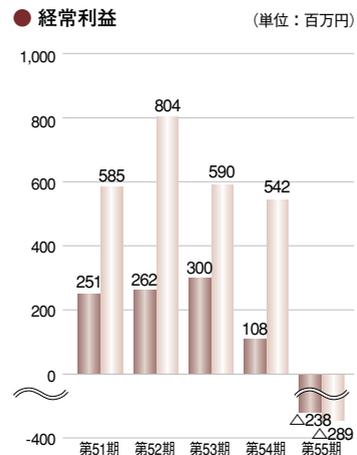
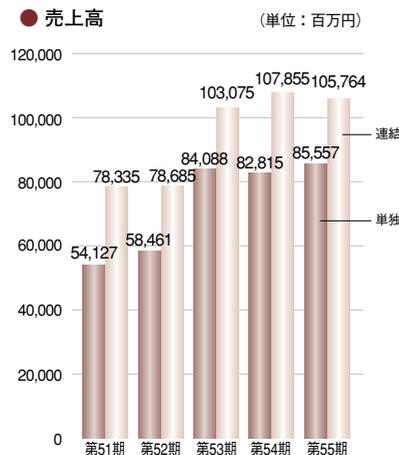
各月の記念日が記載された販促企画カレンダー、マンスリーレポートやお米を使ったレシピが紹介されているカタログです。また、該当月の過去2年間の木徳商品売上ランキングが掲載されているので、その月の売れ筋商品がわかります。これをもとに、商品の陳列や販促活動を行うことができます。



過去2年間の売れ筋ランキングを掲載

FINANCIAL HIGH LIGHT

財務ハイライト



※平成12年10月1日(第53期期首)に、木徳株式会社は、神糧物産株式会社と合併し、木徳神糧株式会社となりました。

区	分	第51期	第52期	第53期	第54期	第55期
売	上	78,335	78,685	103,075	107,855	105,764
	高(百万円)	54,127	58,461	84,088	82,815	85,557
経	常	585	804	590	542	△289
	利益(百万円)	251	262	300	108	△238
当	期	178	291	267	314	△645
	純	99	87	219	109	△498
株	主	3,367	3,661	5,887	5,916	5,091
	資	3,016	3,065	5,246	5,070	4,419
総	資	19,458	22,222	33,108	32,893	31,465
	産(百万円)	13,696	16,411	27,473	24,861	24,673

※上段は連結、下段は単独を示しております。

事業の概況

① 米穀事業

米穀事業は、10年ぶりの不作が確定的となり、商品販売面においても、激しい価格競争が続くなど大変厳しい状況にあります。また、木徳滋賀(株)のJAS法表示違反により、関西地区での精米販売が上期において落ち込みました。しかし、前期に実施したテレビコマーシャルなどの広告宣伝や、積極的な販売促進等の効果により無洗米製品の販売数量は堅調に推移し、特に、外食・中食向け業務用の販売が伸びました。また、更なる販売拡大のため、連結子会社の木徳九州(株)では、最新鋭の無洗米専用工場を建設し、平成15年6月より稼働を開始いたしました。さらに、付加価値型の商品として販売に注力しているタイ産の「タイ香り米」、健康志向の「もみ発芽玄米」はいずれも順調に市場を拡大しています。少量多品種専用精米工場として昨年3月に稼働を開始した「飛翔館」は、生産アイテム数を着実に増やし、お客さまの細かなニーズにお応えしています。しかしながら、古米在庫の販売損失のほか、荷役保管料などの販売費及び一般管理費の増加もあり、米穀事業の当連結会計年度における売上高は91,557百万円(前期比0.02%増)でしたが、営業利益は1,058百万円(同11.7%減)となりました。

② 鶏卵事業

鶏卵事業は、量販店での特売対応などにより取扱数量は前期比微増となりましたが、低卵価により普通卵と特殊卵の価格差が広がったため、一般卵取り扱いの割合が増加いたしました。その結果、当連結会計年度における鶏卵事業の売上高は4,284百万円(前期比2.2%減)、営業利益は68百万円(同22.5%減)となりました。

③ 食品事業

食品事業の主力商品である鶏肉は、牛肉需要の回復と、国内鶏肉の過剰生産による低調な価格相場の中で販売数量は減少しました。さらに、飼料価格の値上がりのため生産部門の収益が圧迫されることになりました。惣菜においても売上減少による利益低下となりました。なお、植物性乳酸菌による発酵技術を利用して開発を行いました「乳酸発酵米粉ライト」は、下期より販売を開始いたしました。また、同じ植物性乳酸菌による発酵技術により開発された「低タンパク米」は医療用食として順調に販売を伸ばしています。このような状況により、当連結会計年度における売上高は7,936百万円(前期比10.9%減)、営業損失は12百万円(前期は430百万円の利益)となりました。

④ 飼料(園芸)事業

飼料(園芸)事業のうち、園芸部門につきましては、平成14年12月1日付でカネコ種苗(株)に営業譲渡したことにより、売上高は2ヵ月分の計上となっています。飼料部門では、中国産稲わら等の輸入飼料の数量拡大を図りましたが、検疫上の問題による輸入停止措置、産地早魃による供給不足により販売拡大にはつながりませんでした。米糠、ふすまなどの糟糠類の販売は堅調に推移いたしました。このような状況下、当連結会計年度における売上高は1,986百万円(前期比34.3%減)、営業利益は124百万円(同10.5%増)となりました。

FINANCIAL DATA

連結貸借対照表

科目	期別	(単位：千円)	
		当期 (平成15年9月30日現在)	前期 (平成14年9月30日現在)
資産の部			
流動資産		18,066,848	19,628,151
現金及び預金		2,304,169	4,348,144
受取手形及び売掛金		8,905,446	9,189,903
たな卸資産		3,956,831	3,980,711
繰延税金資産		117,693	93,661
未収入金		2,042,651	1,606,132
その他		895,774	544,931
貸倒引当金		△155,717	△135,334
固定資産		13,399,103	13,265,427
(有形固定資産)		(10,603,782)	(10,237,638)
建物及び構築物		3,749,552	3,686,573
機械装置及び運搬具		2,710,057	1,939,601
土地		4,046,541	4,127,822
建設仮勘定		—	367,562
その他		97,630	116,079
(無形固定資産)		(146,122)	(172,247)
ソフトウェア		101,507	116,602
その他		44,614	55,644
(投資その他の資産)		(2,649,199)	(2,855,541)
投資有価証券		1,132,459	1,286,557
長期貸付金		122,084	96,619
長期前払費用		107,454	77,233
繰延税金資産		135,227	79,265
その他		1,364,944	1,397,355
貸倒引当金		△212,971	△81,489
資産合計		31,465,952	32,893,578

科目	期別	(単位：千円)	
		当期 (平成15年9月30日現在)	前期 (平成14年9月30日現在)
負債の部			
流動負債		16,516,703	17,174,041
支払手形及び買掛金		3,463,933	3,158,233
短期借入金		8,610,684	9,229,218
一年内返済予定長期借入金		2,549,026	3,068,986
一年内償還予定社債		500,000	—
未払法人税等		63,040	126,536
繰延税金負債		—	149
賞与引当金		186,421	197,548
その他		1,143,598	1,393,368
固定負債		9,502,177	9,311,488
社債		1,700,000	1,000,000
長期借入金		7,452,577	7,720,118
繰延税金負債		539	246,799
退職給付引当金		27,428	28,249
役員退職給与引当金		177,801	175,596
連結調整勘定		39,276	55,245
その他		104,554	85,479
負債合計		26,018,881	26,485,529
少数株主持分			
少数株主持分		355,519	491,971
資本の部			
資本金		529,500	529,500
資本剰余金		331,500	331,500
利益剰余金		4,138,619	4,857,894
その他有価証券評価差額金		117,099	216,450
為替換算調整勘定		△14,190	△13,573
自己株式		△10,977	△5,693
資本合計		5,091,552	5,916,077
負債、少数株主持分及び資本合計		31,465,952	32,893,578

連結損益計算書

科目	期別	(単位：千円)	
		当期 (自平成14年10月1日 至平成15年9月30日)	前期 (自平成13年10月1日 至平成14年9月30日)
売上高		105,764,610	107,855,516
売上原価		98,359,888	99,382,676
売上総利益		7,404,722	8,472,839
販売費及び一般管理費		7,438,095	7,833,535
営業利益 (△は損失)		△33,373	639,304
営業外収益		240,334	334,771
受取利息		10,631	11,645
受取配当金		12,873	85,238
不動産賃貸収入		121,479	103,813
為替差益		—	20,835
連結調整勘定償却額		13,468	8,627
持分法による投資利益		493	—
その他		81,388	104,612
営業外費用		496,263	431,488
支払利息		336,924	329,428
持分法による投資損失		—	279
不動産賃貸費用		100,998	75,435
社債発行費		29,500	12,750
為替差損		16,757	—
その他		12,083	13,594
経常利益 (△は損失)		△289,303	542,587
特別利益		355,104	463,263
固定資産売却益		142,142	229,176
投資有価証券売却益		137,544	215,660
関係会社株式売却益		—	275
貸倒引当金戻入益		—	6,784
受取保険金		49,613	—
その他		25,803	11,365
特別損失		975,505	479,735
固定資産売却損		56,863	18,306
固定資産除却損		8,769	156,700
投資有価証券売却損		924	752
投資有価証券評価損		1,302	41,100
ゴルフ会員権等評価損		1,785	—
貸倒引当金繰入額		207,428	51,217
退職金制度廃止に伴う精算費用		—	145,686
精米不正表示関連損失		579,565	—
その他		118,866	65,969
税金等調整前当期純利益 (△は純損失)		△909,704	526,115
法人税、住民税及び事業税		116,043	230,055
法人税等調整額		△250,017	△38,787
少数株主損益		△129,998	20,024
当期純利益 (△は純損失)		△645,732	314,822

FINANCIAL DATA

連結剰余金計算書

(単位：千円)

科 目	期 別	当 期	前 期
		(自 平成14年10月1日 至 平成15年9月30日)	(自 平成13年10月1日 至 平成14年9月30日)
(資本剰余金の部)			
資本剰余金期首残高		331,500	331,500
資本剰余金期末残高		331,500	331,500
(利益剰余金の部)			
利益剰余金期首残高		4,857,894	4,664,601
利益剰余金増加高		—	314,822
当期純利益		—	314,822
利益剰余金減少高		719,274	121,530
配当金		48,940	117,155
役員賞与		24,601	4,374
当期純損失		645,732	—
利益剰余金期末残高		4,138,619	4,857,894

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	期 別	当 期	前 期
		(自 平成14年10月1日 至 平成15年9月30日)	(自 平成13年10月1日 至 平成14年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		△ 458,029	2,210,806
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 1,216,890	△ 1,066,944
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 296,781	△ 1,351,833
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 3,958	2,139
現金及び現金同等物の増減額(減少：△)		△ 1,975,659	△ 205,831
現金及び現金同等物の期首残高		4,262,692	4,536,703
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額		—	△ 68,178
現金及び現金同等物の期末残高		2,287,032	4,262,692

重要な子会社等の状況

会 社 名	資 本 金	当社の議決権比率	主 要 な 事 業 内 容
木徳九州株式会社	100,000千円	100%	米穀搗精販売業
キトクフーズ株式会社	94,950千円	100%	食品製造販売業
株式会社ライスピア	50,000千円	100%	米穀搗精加工販売業及び食品製造販売業
キトク・アメリカ社	200,000US\$	100%	米穀輸入販売業
内外食品株式会社	160,000千円	72%	畜産物加工販売業
アンジメックス・キトク社	716,000US\$	67%	米穀搗精販売業
備前食糧株式会社	98,000千円	48%	米穀搗精販売業

(注) 1. キトクフーズ(株)と(株)あじときは、平成14年10月1日付で合併し、(株)あじときは解散しております。
 2. 木徳滋賀(株)は、平成15年9月1日付にて清算終了しております。
 3. 備前食糧(株)は、実質的に支配しているため、重要な子会社に含めております。

単独財務諸表

(単位：千円)

科 目	期 別	第 55 期	第 54 期
		(平成15年9月30日現在)	(平成14年9月30日現在)
貸借対照表(要旨)			
流動資産		13,548,780	13,978,447
固定資産		11,124,948	10,883,346
(有形固定資産)		(7,658,807)	(7,412,350)
(無形固定資産)		(76,224)	(103,447)
(投資その他の資産)		(3,389,915)	(3,367,548)
資産合計		24,673,728	24,861,793
流動負債		12,720,979	11,972,987
固定負債		7,533,660	7,817,998
負債合計		20,254,639	19,790,985
資本金		529,500	529,500
資本剰余金		331,500	331,500
利益剰余金		3,452,356	3,999,559
株式等評価差額金		116,709	215,942
自己株式		△ 10,977	△ 5,693
資本合計		4,419,088	5,070,808
負債及び資本合計		24,673,728	24,861,793

(単位：千円)

科 目	期 別	第 55 期	第 54 期
		(自 平成14年10月1日 至 平成15年9月30日)	(自 平成13年10月1日 至 平成14年9月30日)
損益計算書(要旨)			
経常損益の部			
営業損益の部			
営業収益		85,557,936	82,815,171
営業費用		85,632,315	82,667,445
営業利益(△は損失)		△ 74,378	147,726
営業外損益の部			
営業外収益		318,661	381,309
営業外費用		482,576	420,160
経常利益(△は損失)		△ 238,294	108,875
特別損益の部			
特別利益		308,742	440,902
特別損失		813,902	399,670
税引前当期純利益(△は純損失)		△ 743,454	150,106
法人税、住民税及び事業税		2,741	1,555
法人税等調整額		△ 247,933	39,413
当期純利益(△は純損失)		△ 498,262	109,137
前期繰越利益		83,612	69,476
中間配当額		17,009	31,941
当期末処分利益(△は未処理損失)		△ 431,660	146,673

利益処分

(単位：円)

科 目	金 額
当 期 未 処 理 損 失	431,660,079
固定資産圧縮積立金取崩額	43,061,446
圧縮特別勘定積立金取崩額	101,093,388
別 途 積 立 金 取 崩 額	550,000,000
計	262,494,755
これを次のとおり処分します	
利 益 配 当 金	17,001,698
(1株につき2円)	
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	183,256,594
次 期 繰 越 利 益	62,236,463

(注) 固定資産圧縮積立金の取崩額及び繰入額及び圧縮特別勘定積立金の取崩額は、租税特別措置法に基づくものであります。

株式の状況 (平成15年9月30日現在)

- (1) 会社が発行する株式の総数 30,000,000株
 (2) 発行済株式の総数 8,530,000株
 (3) 株主数 1,026名
 (4) 大株主

株主名	当社への出資状況		当社の大株主への出資状況	
	持株数	議決権比率	持株数	議決権比率
木村謙三	405千株	4.8%	—千株	—%
木村初子	351	4.1	—	—
木徳神糧従業員持株会	343	4.0	—	—
木村良	312	3.7	—	—
株式会社東京三菱銀行	240	2.8	—	—
稲垣辰彌	225	2.6	—	—
濱田精麥株式会社	218	2.5	—	—
水野正夫	206	2.4	—	—
木村徳兵衛	202	2.4	—	—
農林中央金庫	186	2.2	—	—
株式会社三井住友銀行	186	2.2	—	—

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 議決権比率は、小数点第2位を切り捨てて表示しております。

会社概要 (平成15年9月30日現在)

商号 木徳神糧株式会社
 事業内容 米穀事業、海外事業、食品事業、飼料事業、バイオフラワー事業
 本社所在地 〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番24号 天王洲セントラルタワー14階
 TEL 03-5479-7111 (代表) FAX 03-5479-6999
 資本金 5億2,950万円
 従業員数 166名 (男性137名、女性29名)

役員 (平成15年12月25日現在)

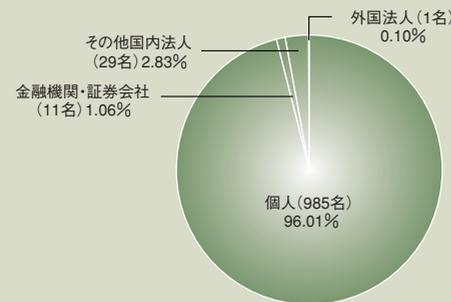
代表取締役社長	木村良	取締役	天川誠
専務取締役	松山正吉	取締役	稲垣辰彌
取締役	足立英夫	取締役	平山惇三
取締役	木村友二郎	常勤監査役	土田秀三
取締役	水野正夫	監査役	大川孝之淳
取締役	志村安彦	監査役	中島
取締役	山本幸雄		



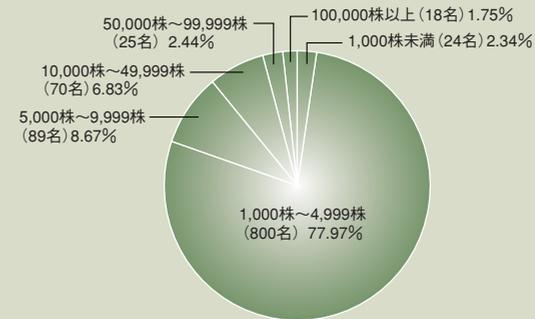
事業所一覧 (平成15年9月30日現在)

本店	東京都中央区銀座
本社	東京都品川区東品川
首都圏営業部および飼料部	横浜市西区浅間町
桶川精米工場	埼玉県桶川市
本牧精米工場	横浜市中区かもめ町
米粉製造工場	新潟県北蒲原郡笹神村
鶏卵部	茨城県猿島郡猿島町

●株式の所有者別分布状況



●株式の所有数別分布状況



株主優待のお知らせ

毎年3月31日および9月30日現在における1,000株以上保有の株主および実質株主の皆さまに対し、当社の米穀製品を年2回進呈いたします。
 3月31日現在の株主の皆さまには一律2,000円相当。
 9月30日現在の株主の皆さまには一律3,000円相当。

*平成15年9月30日現在の株主の皆さまには、「米浪漫」300g入り12袋を贈呈いたしました。



株 主 メ モ

- 決 算 期 毎年9月30日
- 定 時 株 主 総 会 毎年12月に開催いたします。
- 基 準 日 定時株主総会については9月30日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日
- 配当金受領株主確定日 9月30日および中間配当金の支払いを行うときは3月31日
- 名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社
- 同 事 務 取 扱 場 所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社 証券代行部
- 同 事 務 連 絡 先 〒171-8508東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
（郵便物送付先）三菱信託銀行株式会社 証券代行部
（お問い合わせ先）TEL 0120-707-696<フリーダイヤル>
- 同 取 次 所 三菱信託銀行株式会社 全国各支店
- 公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞

（届出諸事項についてのお知らせ）

住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。

貸借対照表および損益計算書掲載のホームページアドレス

<http://www.kitoku-shinryo.co.jp/koukoku.html>